令和３年度　第３回学校運営協議会（学校関係者評価）記録

１　日　時　　令和４年２月１日（火）午後１時 30 分から３時 30 分まで
２　場　所　　静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校
３　内　容
（１）授業見学　「作業学習（ものづくり）」※中止。
（２）協議
・生徒の職場実習、進路状況について
・学校自己評価の結果報告・意見・次年度に向けた改善等について
・学校経営についての意見交換
（３）諸連絡
・次年度の学校運営協議会について

進行	教　頭
記録	部主事

４　協議事項
学校教育目標
「地域に学び、地域に活きる人」
目標具現化の柱
（安全・安心）　丈夫で健康な心身を養うため、安全で安心して学べる環境を作る。
（ 専 門 性 ）　生徒の自己実現と社会参加を支援するため、授業の充実を図る。
（ 連　　携 ）「共生・共育」の充実と地域との連携づくりを推進する。
（チーム学校）　教職員が互いに支えあい高めあい働きやすい環境づくりに努める。

評価	基　　準	評価	基　　準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	**関係者評価**	**意見など**
安全・安心①	安全で安心に生活できる環境づくり				
	緊急時体制と環境の充実	・役割や対応方法を全職員が理解し、対応することができている。	B	B	・毎日の業務で意識するのは、大変だが重要。
	防災、防犯体制の充実と感染症対策の継続的な対応	・防災、防犯及び感染症への備えと対応力が身についた。	A	A	・コロナ禍だが高校との合同実施は生徒にとっても良い。周りの事業所や地区との合同訓練は必要か。 ・感染症対策に自主的に取組めていることが良い。
	人権を尊重する教育の実践	・生徒の主体的な行動を大切にするなど人権を尊重した関わりができている。	A	A	・「待つ指導」について生徒の実態を把握した上で、職員全員で考え取り組んでいる様子がわかる。
		・互いを認め合う生徒同士の関わりが育っている。	A	A	・生徒同士で声をかけ合う雰囲気は良い。
安全・安心②	心身ともに健康に生活できる意識・習慣の確立				
	自己の身体や心の状態理解と自己コントロール力の育成	・自己理解や自己コントロールできる生徒に育っている。	B	B	・自分の行動を振り返り考えることで、自分で考え行動する力が育つことにつながる。
	健康に生活できる習慣の確立	・積極的に運動に取組んでいる。 ・保健指導で学んだことを日々の生活に活かしている。	A	A	・パラリンピアンや実業団選手などと交流し指導を受けられる機会があり良かった。
専門①	自立と社会参加を目指した教育(キャリア教育)の充実				
	生徒のはたらく力とより良く生活する力の向上	・生徒が目標を理解し、各授業、実習に臨み、達成することができている。 ・卒業後に向けて、今の生活を振り返り、改善できる生徒に育っている。	B	B	・経験不足については、日常生活で工夫しながら一つ一つ経験を重ねることが必要。そして、保護者・家庭の協力が重要。 ・キャリアパスポートをキャリア形成と自己実現に活かしたい。

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見等
	コミュニケーション能力の向上	・自分の思いを伝えることができる生徒に育っている。	B	B	・難しいが、コミュニケーションの力が社会生活で重要。
専門②	生徒を理解し、個々の生徒に応じた授業力の向上				
	主体的な学びを支援する授業の充実	・教師とともに又は自分から学習に取り組み、学ぶ楽しさを実感できている。	A	A	・小さな失敗の積み重ねは、力に代わっていく。また、その時の気持ちを振り返ることで相手の気持ちを察する力も育つ。
専門③	特別支援教育に関する専門性の向上				
	授業の充実を図る専門性の向上	・研修で学んだことを生徒の指導に活かすことができた。	B	B	・外部の専門家をたくさん招いて学んでほしい。長期休業等ダイナミックな個人研修への意欲に期待。
連携①	「共生・共育」の充実				
	松崎高校との交流及び共同学習の充実	・互いを認め合う生徒同士の関わりが育っている。	A	A	・よく新聞記事にもなっており、松崎高校との交流は、地域にとってもお互いにとっても良い。
	地域とつながる「共生・共育」の充実	・交流した人々の「共生」についての理解や意識が高まった。	A	A	・地域の公園など（避難地）の整備をする経験は良い。コロナ禍で実施できない行事があり残念。
連携②	保護者、地域関係機関との連携の推進				
	保護者、地域関係機関との連携の推進	・進路や地域福祉に関する保護者の意識が高まった。	B	B	・コロナ禍で活動が制限され残念。
		・本校生徒への理解が学区の関係機関に広がっている。	A	A	・地域の理解が進んだ。町の体制が変わるなどさらに期待したい。
連携③	特別支援教育のセンター的機能の充実				
	適切な就学及び学びの充実に関する理解の推進	・小中学校、高等学校等の児童生徒の支援実績を積み重ねている。	B	B	・地区の特別支援教育の中核として期待。さらに様々な機会を作り、実績を重ねたい。
チーム①	働きがいのある学校にするための業務改善の推進				
	業務の見直しと改善の推進	・生徒に向き合う時間や教材研究等の業務の時間が増えた。	B	B	・感染症対策に時間がとられたり、コロナのストレスがあったりするが、教育活動が維持できるようお願いしたい。
チーム②	信頼される学校づくりのための意識向上				
	信頼される学校づくり	・所属意識が高まり、教職員が不祥事、交通加害事故、交通違反ゼロを達成した。	B	B	・職場環境が良いことは、生徒の育成にもつながっている。

その他

・コロナ禍でじっくり授業を見る機会が少なく評価は難しいため視点を変えた評価の工夫が必要。
・卒業後の自立を見据えた生活様式を身につけることや先輩たちがどのような技術を身につけて社会でやっているのかなどを意識したカリキュラムを取り入れてはどうか。
・地域で「障害のことが良くわからない」「どのように接してよいかわからない」という声を聞く。一人一人違いがあり、その人の得意なことや苦手なことを知り、コミュニケーションの方法を知り、関わることによって心が通じ合い、思いやる気持ちが生まれてくると思う。そのためには、地域の活動や行事に積極的に参加し、知っていただき、関わっていただくことだと思います。